

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2871800245		
法人名	株式会社 高林		
事業所名	グループホームときの郷		
所在地	(〒 677-0015 ) 兵庫県西脇市西脇 2 7 3		
	電話	0795-22-8700	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町 2 丁目 2 番14-703号		
訪問調査日	平成20年8月1日	評価確定日	平成20年9月18日

【情報提供票より】 [平成20年7月23日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年6月15日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計9人)		
職員数	9人	(常勤7人) (非常勤2人)	/ 常勤換算7.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上3階建て建物の 1階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金の有・無	有り ( 円 ) ・ (無し)			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	(有り) (200,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	(有り) ・ 無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または、1日あたり		1,200円	

(4) 利用者の概要 (平成20年7月23日 現在)

利用者人数	計9名 … (男性3名) (女性6名)		
要介護1	2名	要介護2	3名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均84歳 … (最低75歳) (最高89歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西脇市立西脇病院	広田歯科医院
---------	----------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

西脇市内の中心部にあり、日常生活には大変便利。近くには、生協(地区コミュニティセンターを併設)ほか、店舗が建ち並び、また、公園や国の登録文化財も徒歩圏内にあるなど環境もよく、心地良く散歩を楽しんでいる。利用者は地元の人が多く、併設するデイサービス利用者との交流もある。「人、その人らしく」を事業所理念に、利用者各々に合った「1対1」の支援を心掛け、庶民としての普通の生活をおくれるようケアしている。運営主体の代表者は医師であり、いつでも連絡が取れ、緊急対応においても心強い。職員の定着率は高く、また、年齢層も偏りがなく、「家族」の関係が上手く築かれている。庭を整備して家庭菜園を広げ、季節の野菜作りを楽しんでおり、収穫物が食卓に並ぶのも利用者の日常での楽しみの1つである。 ◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①地域住民との付き合いは、この1年は、広がっていない。②運営推進会議は1度開催したのみ。③家族への報告については、ケア担当者がコメントを一言添えることを検討中。④介護計画は定期的に見直し、家族等の確認印をもらうようになった。⑤記録様式の様式を変更し、重複記載は減った。⑥ボランティアの受け入れは未だ着手できていない。⑦消防避難訓練を開催した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価については、ホーム長が記入し、それを各職員に回覧して周知徹底した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、昨年8月27日に第1回会議を開催したが、以後、開催できていない。会議には、民生児童委員、地域包括支援センター職員、行政機関職員、保健師(地域知見者)が出席し、ホームの概要説明、会議の目的、意見交換等がなされたが、利用者およびその家族は出席していない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の意見や要望は、家族等がホームを訪れた時(面会時)に聴き取り、メモや連絡ノートに書き留め、職員ミーティングで周知し、必要に応じて対処方法を検討している。「ときの郷通信」は年に1回発行し、写真も多く掲載し、入居者全体の日常や年間行事の様子を伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 町内の清掃作業に積極的に参加したり、地元の高校生の介護体験(3日間)授業も受け入れている。職員も、ホームを訪れる方(利用者の知人)と顔見知りになるなど、徐々に外部の方とのつきあは広がっているが、地域住民との交流機会はまだまだ少ない。運営推進会議を定期的に開催し、これも1つのきっかけに地域住民との交流機会を増やしてほしい。

◎その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

【左】 毎日のようにトランプを楽しみ… 【中】 カセットをかけての「歌の時間」も日々の楽しみ 【右】 ゲーム体操



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援

水やり、タオルたたみも、協働で…



◎居心地のよい共用空間づくり

壁飾りにも季節感を…



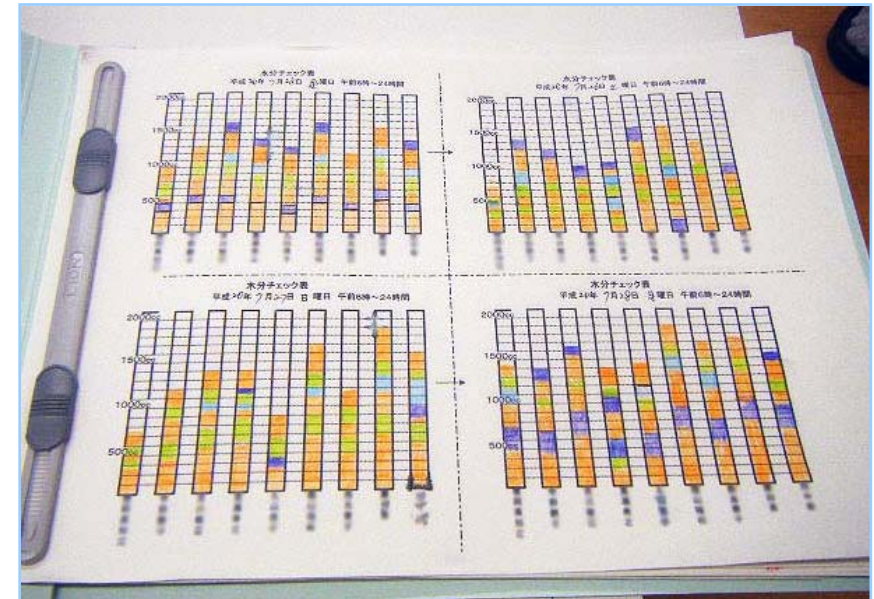
◎家族等への報告

アルバム (家族の来訪時には見てもらう)



◎その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

水分摂取の把握 (色分けグラフによる記録方法の工夫)





▲ ベランダ



▲ 血圧計も常設



▲ 協働（わらじ作り）



▲ 居室には馴染みのタンスも持ち込み…



▲ 入居者が使いやすい  
引き出し式の食器棚



▲ 椅子を動かしやすくする工夫



▲ 散歩道の風景



## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人、その人らしく」を事業所理念とし、個別支援に重きを置きながら、人として…地域住民として…の日常生活を送っていただくことを重視し、そのときどきの喜怒哀楽を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	生活における人との接点を大切に、併設するデイサービスに出かけたり、デイサービスの馴染みの利用者と話をしたり、職員と一緒に買物や散歩に出かけるなど、日常生活リハビリを中心とした取り組みをしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	デイサービスの利用者でもある近隣住民との交流もあり、町内の清掃作業にも積極的に参加している。高校生の介護体験(3日間)授業も受け入れている。しかし、地域住民とのつきあいの拮がりは少ない。	○	定期的に運営推進会議を行ない、出席する地域住民には交代して参加してもらうなど、地域とのつきあい(そのきっかけ作り)を工夫してもらいたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・第三者評価に目を通し、日頃の業務を見直すためのツールとして、日常業務の改善等に取り組んでいる。また、第三者評価についての意義・評価結果を家族会で説明している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回運営推進会議は、昨年8月27日に、民生児童委員、地域包括支援センター職員、行政機関職員、保健師(地域知見者)が参加し開催されたが、それ以降は開催していない。その会議ではグループホームの概要説明、本会議の目的、意見交換等がなされたが、家族等への案内や議事録の送付は行なわれていない。	○	運営推進会議の定期的な開催と、利用者本人や利用者家族の出席も求められる。内容については家族等へ報告していただきたい。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政職員、特別養護老人ホーム職員、民生委員等が集まる連絡協議会に出席したり、計画作成担当者が地域包括支援センターに相談に出向くなど、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会の都度、日々の暮らしの様子、金銭出納報告などを行っているが、個別の便りを送付するまでには至っていない。年に1回発行されるホーム便り「ときの郷通信」では、イベント時や利用者作品などの写真を中心に、日常生活や行事時の様子、年間行事の報告を行なっている。アルバムを作成し、訪問時に見てもらっている。	○	毎月の領収書等の送付の際に、担当者が利用者の日常の様子をお知らせする手紙を同封されるなど、してもらえれば、ありがたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族意見はメモや連絡ノートに書き留め、職員ミーティングで周知し、必要に応じて対処方法を検討している。家族意見は、家族等が面会にホームを訪れた時に聴き取ることが多い。今年の夏のお祭りは、秋に順延して家族会と一緒にするなどの工夫をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動や離職は、ほとんど無いが、離職する時は最低でも1か月前に申し出るようしており、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上、必要な研修(外部研修)は、職員それぞれに受講できるようにしている。ホーム内でも、C型肝炎・ノロウイルス・食物による窒息についてなどの勉強会を行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護認定審査会やケアマネジャーの勉強会にて、他の事業所の職員と顔を合わせた時に、技術的なことやソーシャルワークについて情報交換をしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族を交え、入居前に面談やホーム見学をしてもらい、あらかじめ現在困っている事や不安に思っている事を聴き取り、ホーム側としてどのような対応ができるかを話し合った上で、入居に至っている。入居前に利用者の自宅訪問はしていない。	○	利用者の現在の生活環境を知る意味で、入居前訪問をすることが望ましい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はいつもこやかに利用者と同じ目線に立ち、1対1で会話することを基本にしており、各職員が利用者の情報を共有している。利用者の好みは各職員が把握しており、色々な知恵や教えも頂きながら一緒に『暮らして』いる。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者と接するなかで、その利用者なりの行動や表情など観察し、個性、思い、意向を把握している。その情報を各職員は共有し、利用者主体の生活を支援している。各々の誕生日には、日ごろと違った利用者の望みを伺い、それを叶えられるように努力している。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初期介護計画は、入居時の情報書類のうち「バックグラウンド」「生活の様子」「家族状況とグループホームに期待すること」シートをもとに話し合いをしたうえで、介護サービス計画を立案している。利用者主体になるように様式を見直しをしており、援助内容がより具体的で、誰にでも分かりやすくなった。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状態を個別記録や連絡ノート等に記録し、各職員がそれらの情報を共有している。これをもとに、3～6か月毎に関係者が検討を行ない、介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するデイサービスへ知人を訪れたり、ときにはデイサービスの特浴を利用したりするなど、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。併設する集会所を家族会や運営推進会議などに利用している。	○	集会所は、地域住民の活動拠点にさせていただきなど、より積極的な利用を検討していただきたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の代表者は開業医であり、毎週ホームを訪問して診療している。家族の協力も得て、希望の医療機関への支援も行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについては、家族からも相談を受けており、主治医と相談しながらホームでどこまで対応が可能かを検討している。常時医療が必要で無い限りは、できる限りホームで対応する方針ではあるが、その対応にも限界がある旨、家族等に伝えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者それぞれの個性を把握しており、対応方法や礼儀には特に注意を払っている。介助も“さりげなく”を心掛け、個人情報には職員一人ひとりが気を付けている。事務室からの書類の持ち出しは禁止し、ホーム外での会話等にも十分な注意を払うようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの性格や行動パターンを各職員が理解しており、その人に合ったコミュニケーションが取れている。利用者と職員は馴染みの関係が築けてきている。夕食時にビールを飲まれる利用者もいるなど、その人に合った支援をしている。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや後片付けを職員と利用者が常に協働している。それぞれの利用者の状態に合わせた食事を工夫している。食事前にはメニューを利用者に読んでもらい、職員も一緒に食卓を囲み、楽しい雰囲気の中で食事ができるよう支援している。また、おやつを作る機会を増やした。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には隔日の入浴だが、希望すれば毎日でも入浴することができる。季節湯も行なっている。ホームの一般浴槽に入ることが難しい利用者には、併設するデイサービスの特浴を利用することも可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者それぞれが持っている力を把握しており、日常の家事(掃除・水やり・洗濯物たたみ等)を中心に、その人が出来る事を見つけ出し、役割としている。ホームでは季節行事を行ない、気候の良い時には菊花展やバラ園散策に出向いている。ボランティアの受け入れは少ない。ゲームを皆で楽しんだり、歌の時間も毎日設けて唄っている。	○	運営推進会議を活用するなどして、近隣ボランティアなどを受け入れてほしい。
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に大型スーパーや公園があり、日常的に買物や散歩に出掛けている。花見や紅葉見物などには弁当やおやつも持って行き、季節を感じながら、一日を過ごしている。誕生日には喫茶店に行くこともある。地域の公民館で月1回開催されている「ふれあい広場」への参加は、まだできていない。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関については、日中は原則として施錠していないが、その日の利用者の状態によって、やむを得ず施錠する時がある。庭へはリビングからの出入りが自由。居室については利用者自身によって施錠することができる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事故防止マニュアルや緊急時対応マニュアルを備えている。防災計画を提出し、第1回避難訓練を今春に行なった。近隣住民への案内はしたものの、協力してもらうような働きかけはできていない。	○	消防や近隣住民などホーム周りの協力が得られるような働きかけも検討して欲しい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作り、利用者の身体状況に合わせた食事を提供している。食事摂取量及び摂取カロリーを把握している。水分摂取量については、色分けした積み上げグラフを用いて分かりやすく記録している。利用者の体重はグラフに記録しており、家族にも渡している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の鉢植えや観葉植物を置いている。玄関ホールを入ったところやリビングの一角にはソファを置いて談話コーナーにするなど、思い思いに過せる居場所を作っている。テラスや庭にはリビングから直接出ることができ、そこに置かれたベンチなどでいつでも自由に過ごすことができる。庭の一部は家庭菜園にしており、トマトや胡瓜などの季節野菜の収穫は利用者の楽しみでもあり、食事のテーブルに並ぶことも多い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレと介護用ベッドが備え付けられている。入居時にはできるだけ馴染みの物を持ちこむようにしてもらっている。室温管理についても、できるだけ空調設備に頼らず、自然の空気を感じてもらおう、職員が換気に気には特に気を配っている。		

※  は、重点項目。